

# 熱意込めた仕事に「やりがい」

日本建設産業職員労働組合協議会（日建協、田中宏幸議長）は、2015年度の大学への出前講座をスタートさせた。10年目を迎えた今年度は計7回の開催を計画している。初回となる3日は、静岡県富士宮市の富士教育訓練センターで3大学が合同で実施している建築施工管理実習に、協賛する日本建設業連合会（日建連）とともに訪れ、建設産業の社会的役割などについて

## 日建協

て講義するとともに、学生に熱いエールを送った。元請企業の職員労働組合である日建協が、技能者の育成を柱にした富士教育訓練センターで出前講座を行うのは昨年からの。

出前講座では建設産業の次世代を担う学生に対して、働くの者の視点から見た建設産業の魅力を中心に、社会資本整備の重要性、ゼネコンの役割や仕事内容などに



ついて伝えていく。昨年までに土木・建築を学ぶ学生を対象に計46回開催し、約3300人の学生が受講している。

今回の同センターでの実習には、東洋

大、立命館大、名城大から現場管理者を目指す女性5人を含む学生28人が参加。配筋や型枠の組み立て、木造建築の建て方などを自ら行い、材料の重さなどを体感するとともに、作業手順や施工のポイントなど現場管理者を目指す上で必要なことを学んでいる。

3日は日建協の中村浩一政策企画局長が、国民生活の安全安心や利便性の向上など建設産業の社会的役割を解説。自らの経験を交えながら「熱意を込めた仕事は他の人から認められ、形として残る。やりがいのある仕事だ」と建設業の魅力を伝えた。藤浪涉淺沼組職員組合本部執行委員長は、新入社員から現場所長に至るこれまで施工した建物を紹介し「建設産業の魅力やゼネコンの仕事とやりがい」をアピールした。また、日建連の齋藤克己広報部報道担当部長が建設産業の実情、今後の展望などについて説明した。

- 今回を除く今年度出前講座の開催予定は次のとおり（①開催日②対象）。
- ▽富士教育訓練センター（静岡県富士宮市）
    - ①9月17日②東洋大学、ものつくり大学、立命館大学、芝浦工業大学の建築系3、4年生
  - ▽大阪産業大学工学部（大阪府大東市）
    - ①10月19日②土木系3年生
  - ▽東洋大学理工学部建築学科（埼玉県川越市、川越校舎）
    - ①10月30日②1、2年生
  - ▽北海道大学工学部（札幌市北区）
    - ①11月20日②3年生
  - ▽法政大学デザイン工学部（東京都新宿区、市ヶ谷田町校舎）
    - ①11月14日②3年生
  - ▽立命館大学理工学部（滋賀県草津市、びわこ・くさつキャンパス）
    - ①11月上旬で調整中